

Route Navigation

《体験入学情報》

◎ 享栄高等学校（私立高校）

- ◆日時：11/19（土）・26（土）・12/3（土）9：30～12：00
- ◆内容：学校紹介（普通科・商業科・機械科の特色について）、校内見学
- ◆申込期限：11/14（月）・11/21（月）・11/28（月）まで

◎ 名古屋市立中央高等学校（公立高校・昼間定時制）

- ◆日時：12/3（土）9：30～12：00
- ◆内容：単位制による定時制課程についての説明、学校生活についての説明等
- ◆申込期限：11/16（水）まで

◎ 愛知県立城北つばさ高等学校（公立高校・昼間定時制）

- ◆日時：12/11（日）10：00～11：30
- ◆場所：愛知県立愛知工業高等学校 定時制の体育館
- ◆内容：学校概要、教育課程、学校生活等の説明
- ◆申込期限：12/2（金）まで



《私の進路選択》

第7弾は、国語科担当の加藤洋佑先生です。

結果は「不合格」。目の前が真っ暗になった。確かに担任の先生は「洋佑、多分厳しいよ」と伝えてくれていた。が、実際にそれを目の当たりにしたとき、心の準備は正直全然できていなかった。15歳の2月、推薦入試の合格発表の日。

いくら予想をしていたと言っても、当時15歳だった自分の拙い想像力では足りなかった。ただただショックだった。このあと、不安な日々は1ヶ月近く続くこととなる。

公立入試に向けてどれだけ学習しても足りない気がする。教室にかけられたカウントダウンカレンダーの数字が気持ちを焦らせる。眠れない。教室では、既に私立入試（主に推薦）で第1希望の高校に進学を決めたクラスメイトが春休みに行く卒業旅行の話で盛り上がっている。仲が良いので、気を遣いながら話を進め

てくれているのは分かるが、まだそんな気にはなれなかった。担任の先生はことあるごとに「最後だから」「後悔のないように」「友達と良い思い出を」を連発している。進路も決まらず、不安でいっぱい状態で良い思い出と言われても…酷だ。でも、友達とも楽しく過ごしたい、という気持ちもある。…難しい。

推薦入試の後、あっという間に卒業式の日は来た。これまで練習してきた「旅立ちの日に」は最高の出来だった。声変わりの途中であるが、大分低い音も出るようになった男声パートの力強い歌声とソプラノとアルトのハーモニーは会場にいる全員を感動させた、と思う。思い思いに友達や先生と別れを告げ、進路の決まらないまま、中学校を卒業した。

どれだけ進路の決まっている人達が羨ましかったか分からない。きっと、あと10日もすれば同じ状態になれると心では分かっているけど、その10日間は羨ましかった。ただ、今の自分にやれることは、入試に向けての勉強。それしかなかった。だから、勉強した。精一杯、試験の当日まで、直前まで、英単語を覚え、漢字を書き、過去問を解き、復習に徹した。テレビもゲームも小説も我慢した。メールは、少しだけした。メールの相手は、公立推薦で合格が決まった人だった。

「受験が近いから、返信はいらぬから」と前置きし、励ましの言葉を贈ってくれていた。その心遣いが嬉しかった。

試験当日。あまり眠れなかったが、やれることはやった。後は野となれ山となれ、と腹をくくって試験を受けた。各教科の直前の20分間も単語帳などの復習をして、時間を無駄にしないように気を付けて、やれるだけのことはやって試験に臨んだ。

そして、合格発表の日。掲示板の自分の受検番号の横には、はっきりと「本校に合格」の文字があった。

昔、同じように中学生だった先生からのアドバイスは2つです。

- ① やれるだけの努力をしよう。
- ② 友達を精一杯思いやろう。

支えてくれた友達や家族への感謝の気持ちと、不安だったけれど、がむしゃらに努力した日々は今でも忘れられません。

第1志望の高校に行けたから、バラ色の人生があるわけではありません。第2志望になったから人生終わり、というわけでもありません。偏差値で人間の価値は絶対に決まりません。大切なのは、進んだ先でどう成長するかです。だから、今も、これからも努力を続けて欲しい。それが先生からの願いです。皆さんの進路選択が、皆さんの人生にとってより良いものになるように祈っています。

